

## 【風炉・炭手前・最簡略版】

茶道口をあけて炭斗を持ちだし、風炉の右に置く。

襖を閉めにいって、戻る。

和巾を取って捌き、絞り和巾にて釜の蓋を閉め、すぐ和巾を腰に付ける。

羽簾を風炉と炭斗の間に下ろす。

鎌を取って釜に掛ける。

釜敷を炭斗から下ろして（あるいは、紙釜敷を懷中から出して）炭斗の前に置く。

左の膝を立て、釜を下ろし、釜敷の上に置いて膝を直し、釜を右の方（下座の方）に引いておく。

鎌を外して、釜の摘み通りの右側に置く。（合口が自分の方）

羽簾を取って風炉を掃き、元のところに置く。

火箸を取って下火を直す。

（このときに火箸に灰がついたのであれば、羽簾を取って灰を掃い、羽簾を元に戻して火箸も元に戻す）

羽簾を取って風炉を掃き、羽簾を炭斗の右前（客付）に真っ直ぐに置く。（羽先が風炉敷板の通りくらい）

香合を取って羽簾の柄の右に置く。

炭斗を風炉の際に寄せる。

火箸を取って左手に移し、右手で胴炭を取って風炉のなかに置き、それから火箸を右手で取って順々に炭をついでいく。

最後に留炭をして、火箸を炭斗のなかへ入れ、炭斗を元の場所に移す。

香合を取って蓋をあけ、蓋は居前（畳の中央あたり）に置く。右手で香合に入っている香木（正式には伽羅であるが、略式なので白檀など）を火合の所に置いて焚く。

香合の蓋をする。

（客から香合拝見の所望）

香合の蓋上をさっと手で拭いて客に出す。（風炉敷板の前端の通りあたり）（客も拝見を終えたら同じところに置く）

※香合拝見がなければ（省略するならば）、蓋をしたらすぐ炭斗に入れる。

羽簾を取り風炉の縁を掃き、羽簾を最初の通り風炉と炭斗の間に置く。

釜の方に向きを変え、鑓を取り釜に掛け、釜を炭斗の前まで引き寄せ（炭取の右前あたりまで真っ直ぐ（真横）に引いて炭斗の前あたりで斜めにする）、

左膝を立て、釜を風炉に掛け、膝を直す。

釜敷を取って炭斗に戻す（もしくは、紙釜敷を取って懷中する）

釜の据わりを直し、鑓を外し、炭斗のなかに入れる。

襖を開けに行き、点前座に戻って、炭斗を引く。

（香合拝見がある場合）襖を閉め、香合拝見が終わるのを待つ。

（香合拝見がある場合）香合拝見が終わって定所に返されたら、襖を開けて点前座に出て、香合を引く。

また出て、羽簾にて点前座を掃き、羽簾を左（勝手付）の壁際に置く。

風炉に向かって座り、帛紗を捌き、釜の蓋を清め、釜の蓋の口を切り（湯が沸いていなければ後で）、それから風炉を拭き（焼物やカネ風炉の場合は拭かない）、敷板が塗であれば敷板も拭く。

帛紗を腰に納め、また羽簾を持って掃き入れ、挨拶して茶道口を閉める。